



登弥神社は富雄川の東側、奈良市と大和郡山市の市境の西ノ京丘陵の森の中に鎮座します。

古くは木嶋大明神と称され、今も石灯籠にその名が残ります。

鳥居をくぐり境内に入ると、長いなだらかな登りの石段があり、一番奥の高い所に本殿と拝殿があります。

登弥神社

(奈良市)



本殿は一間社(正面の)

(祭神)

高皇産霊神、神皇産霊神、
誉田別命、登美饒速日命、
天兒屋根命

(住所) 奈良市石木町648の1

(交通) 近鉄・九条駅から徒歩約20分

(拝観) 境内自由

(駐車場) 有(無料)

(電話) 0742・45・1117

柱間が一つ(春日造)切り妻屋根で、棟と直角な面に入り口がある様式で、東本殿と西本殿の二つが横に並んでいます。

2020年に国の登録有形文化財となりました。

古来「トミ」と呼ばれた。

た場所は当地から北、富雄川の上流一帯を指します。トミの字は登弥、鳥ゆかりのある当地に祖神と天神地祇を祭ったのが創始と伝わります。

由緒については、神武天皇が大和平定の後、この地において皇祖天神を祭ったのが始まりで、その後、天皇の平定に功績

無形民俗文化財に指定されています。

(奈良まほろばソムリエの会会員 青木章二)

神武天皇、大和平定ゆかり